

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00977

研究課題名（和文）障害者の文化芸術活動の実践分析に基づくエンパワメント評価及び支援システム開発研究

研究課題名（英文）Empowerment evaluation and support system development research based on action research of cultural and art activities of persons with disabilities

研究代表者

津田 英二（TSUDA, EIJI）

神戸大学・人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：30314454

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,200,000円

研究成果の概要（和文）：各種学会での継続的な研究協議、韓国ナザレ大学等との研究交流集会、障害者の文化芸術活動を中心とした学びの機会の創出モデル開発、附属施設「のびやかスペースアーチ」におけるアクションリサーチ、知的障害者を対象とした体験新喜劇プログラム開発、附属特別支援学校におけるアクションリサーチなどを行った。具体的には、障害者の文化芸術活動作品の価値づけに対するジレンマの詳細、障害者自身の葛藤状況などについて考察する材料、文化芸術活動に取り組む障害者の活動条件に関する日韓比較による思想・哲学の差異の検討などを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2020年度に実施した障害者の文化芸術活動をテーマとした意識調査の結果を分析することを通して、障害者の文化芸術活動作品の価値づけに対するジレンマの詳細、障害者自身の葛藤状況などについて考察する材料を得た。また、文化芸術活動に取り組む障害者の活動条件に関する日韓比較なども行い、背景となる思想・哲学の差異なども検討した。研究協議においては、教育福祉論、発達保障論、福祉教育論をベースとしながらそれらを融合発展させていく方向で検討を進めるなどした。

研究成果の概要（英文）：Continuous research discussions at several academic societies, research exchange meetings with South Korea's Nazareth University, etc., development of models for creating learning opportunities centered on cultural and artistic activities for people with disabilities, action research at the affiliated facility "Nobiyaka Space Arch", program model development of a new experience-based comedy program for people with intellectual disabilities, and action research at an affiliated special support school. Specifically, the dilemma regarding the valuation of works of cultural and art activities by persons with disabilities, the conflicts of persons with disabilities, and thoughts and philosophies based on a comparison between Japan and South Korea regarding the conditions for the activities of persons with disabilities engaged in cultural and art activities.

研究分野：社会教育・生涯学習

キーワード：文化芸術活動 障害者 生涯学習 アクションリサーチ 支援者の葛藤 価値のジレンマ

1. 研究開始当初の背景

システムの最適化を模索する。障害者の文化芸術活動は、行政が直接提供・支援するものもあるが、学校教育の延長として行われるもの、社会福祉施設等が実施しているもの、文化芸術団体が主催するもの、NPO や個人が実施するものなど、大きな多様性がある。自発的な活動である分、地域間の格差も大きい。それらの差異を前提にして、総合的に推進していくためにはどのようなシステムが必要か、ということが主要な問題意識である。社会教育研究、生涯学習研究もまた、民間の多様な学習機会の広がりを支援することの困難について検討するなど、多様な学習機会のありようを念頭に置いた研究を蓄積してきている。これらの研究を背景として、本研究では障害者支援、文化芸術活動支援の文脈を加え、支援組織の多元性も念頭に入れ、障害者の文化芸術活動に固有の支援システムのあり方を模索する。したがって、支援システムをめぐる中心的な問いは、多様に広がる実践を下支えする行政や市民による支援システムとはいかなるものであるか、それはどのように構築されるか、ということである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、共生社会実現に資する障害者の文化芸術活動の推進に必要な基礎的な知を探究しそれを総合化することである。

本研究の独自性・創造性として、次のような諸点を挙げることができる。第一に、生涯学習として実践されている障害者の文化芸術活動を教育学の観点から実践分析しようとする点である(上図に例示)。第二に、研究者の多様な視点からの分析・討議を前提にした研究である点である。教育学をベースとしつつ、哲学・芸術学・社会福祉学の観点からの吟味も行い、また共生社会をゴールとするという点で、ESD 研究の視点を導入する学際的研究である。第三に、実践現場に密着しながら文化芸術活動・評価・支援システムの総合的把握をめざそうとしている点にある。そのために、実践的研究、アクションリサーチ、定点観測、国際比較を取り入れ、ミクロな視点とマクロな視点の総合化をめざす研究方法論も、学術的独自性をもちえる。

実践的研究やアクションリサーチの拠点として、神戸大学大学院人間発達環境学研究科サテライト施設「のびやかスペースあーち」を使う。この施設では、本研究の代表者を中心に運営され、日常的に実践的研究が実施なされており、障害者を含む多数の市民が集まり、音楽演奏やアート制作、展示解説などの文化芸術活動が定期的に行われている。

また、定点観測の拠点として、国際比較研究の観点から、米国ミネソタ州の複数の実践に置く。ひとつは Interact Center of Visual and Performing Arts であり、プロフェッショナルなアーティスト集団として定評のある障害者施設である。もうひとつは TAP という、文化芸術活動を用いて障害者の社会参加を促そうとする小規模な新興の自助グループである。対照的な 2 つの事例の実践分析・評価・支援システムを検討することで、日本の諸実践のより深い理解を得る知見が期待できる。なお、両者とも研究代表者がすでに関係を築いている団体であり、研究協力に応じてくれる良好で親密な関係にある。また、韓国の水原にあるエイブルアートセンターも定点観測地点にできないか、検討し協議をする予定である。

3. 研究の方法

2018～2019 年度は、障害者の文化芸術活動の実践分析を中心に成果を蓄積する。ここでは、教育学の観点から、多様に展開している個々の実践の本質把握を行う。そのために、インテンシブなフィールドワークを行う。フィールドワーク先として、たんぼぼの家(大規模・全国展開・奈良市)、ポラリス(小規模農村部・まちづくりに貢献・山元町)、たんぼぼ(小規模都市部・教育学ベースの理念・神戸市)などを想定している。

2020～2021 年度は、障害者の文化芸術活動実践の評価方法の開発を中心に模索する。ここでは、個々の実践の本質に即して、参加者のエンパワメントに資する評価方法を具体的に提起することをめざす。そのために、実践的研究のフィールド(神戸大学サテライト施設「のびやかスペースあーち」=次々頁コラム参照)において、plan-do-see サイクルを通じたアクションリサーチを行う。また、それによって提示された評価方法を、多様な実践現場において試行し、その有効性を検証する。これらの研究に加え、研究期間を通して、複数の実践の定点観測を行う。5 年間にその活動がどのような成果を挙げ、あるいは困難を抱え、活動を変容させるか、その活動がどのような外部組織等にどのように支えられるか、その支援はどのような効果をもつのか、といったことを検証する。ここでは特に、国内とともに海外の実践の定点観測も行い(観測地点については前述した)国際比較研究の観点を取り入れる。

2022 年度は、以上の研究を通して、多様で優れた実践を支える支援システムを総合的に考察し、研究成果をまとめる。支援システムについては、研究期間全体を通して定期的に総合化し、討議を通して妥当性を検討していく機会をつくる。具体的には、定期的な研究会の他、国際セミナーの実施、学会における報告などを実施する。

4. 研究成果

初年度である2018年度は、共同研究者による研究会を開催し、研究方針や計画を共有するとともに、国内外の障害者の文化芸術活動の実践拠点を複数個所定め、その実践分析を行うことで、定点観測を開始した。主要な拠点は、実践的研究フィールド（神戸大学サテライト施設「のびやかスペースあーち」）であり、障害者の日常的な文化芸術活動の支援を対象としたアクションリサーチを継続実施した。毎週の活動の中にアートや音楽の活動を組み込むとともに、特に新喜劇の要素を入れた表現活動をプログラム化し、その効果検証を行った。その他、米国ミネソタ州のTAP、Interact Center for Visual and Performing Arts、韓国の劇団ラハブ、日本のNPO法人ポラリス、社会福祉法人太陽会、NPO法人あんだんて、社会福祉法人たんぼぼ、NPO法人いちぶんネットなどである。それぞれの活動を参与観察し、活動の実態や外部からの支援状況、理念、課題や展望等の聞き取りを行った。これらの情報を、支援のあり方が将来の実践のあり方にどのような影響を与えるのか、ということを検証するための基礎データとして蓄積した。また、韓国の劇団ラハブについては神戸に招聘し、障害者文化芸術活動の国際化をテーマとした協議を行うなどした。また、これらのフィールドワークとリンクする形で、主に国内の障害者の文化芸術活動実践のリスト化に着手した。情報交流や成果報告として、日本福祉教育・ボランティア学習学会研究大会、日本社会教育学会の関西集会、六月集会、研究大会に参加し、研究報告を行った。

2年目の2019年度は、共同研究者による研究会を開催し、研究方針や計画を共有するとともに、国内外の障害者の文化芸術活動の実践拠点を複数個所定め、その実践分析を行うことで、定点観測を行なった。主要な拠点は、実践的研究フィールド（神戸大学サテライト施設「のびやかスペースあーち」）であり、障害者の日常的な文化芸術活動の支援を対象としたアクションリサーチを継続実施した。毎週の活動の中にアートや音楽の活動を組み込むとともに、特に新喜劇の要素を入れた表現活動をプログラム化し、その効果検証を行った。その他、米国ミネソタ州のTAP、Interact Center for Visual and Performing Arts、韓国の劇団ラハブ、日本のNPO法人ポラリス、社会福祉法人太陽会、NPO法人あんだんて、社会福祉法人たんぼぼ、NPO法人いちぶんネットなどである。それぞれの活動を参与観察し、活動の実態や外部からの支援状況、理念、課題や展望等の聞き取りを行った。これらの情報を、支援のあり方が将来の実践のあり方にどのような影響を与えるのか、ということを検証するための基礎データとして蓄積した。なお、韓国の劇団ラハブなどを招聘し、国際シンポジウムを実施する計画を立てたが、実施日間近になって新型コロナウイルス感染拡大のため実施が不可能となり、これに宛てていた経費を次年度に繰り越さねばならなくなった。また、これらのフィールドワークとリンクする形で、主に国内の障害者の文化芸術活動実践のリストを作成・公開した。情報交流や成果報告として、日本福祉教育・ボランティア学習学会研究大会、日本社会教育学会の関西集会、六月集会、研究大会に参加し、研究報告を行った。

3年目の2020年度は、新型コロナ感染拡大のためにフィールドワークやアクションリサーチの実施の多くが困難になり、代替措置としてWEBを活用した量的調査を実施した。調査は、20歳以上の男女に対して、文化芸術活動に対する理解や障害者の芸術活動に対する理解、障害者問題に対する理解の程度を尋ね、文化芸術への意識の高さと障害者問題への理解の深さの相関性を把握するものとして設計した。また、これも昨年度末に新型コロナ感染拡大のために延期としていた日韓交流セミナー「知的障害者の舞台芸術とその支援」を、12月19日にオンラインによって開催することができ、日韓の研究者、実践家からエンパワメント評価の観点や支援のあり方についての情報や知見を得た。アクションリサーチについては、「のびやかスペース」の活動において、オンラインでプログラムを展開することとなり、その動きを利用してWEBを用いた文化芸術活動やその発信を試行した。この経験により、オンラインでの活動に着眼する契機を得た。また、アクションリサーチのフィールドとして神戸大学附属特別支援学校との連携を深め、また前年度に行なったフィールドワークの記録に基づいた討議を行ない、論文としてまとめた。障害者の文化芸術活動実践の情報収集については、引き続き意識的に行なった。特に兵庫県内の多様な活動の情報整理を進めた。昨年度まで集約した情報については、WEBページで公開するとともに、その情報を介した実践者との関係形成にも努めた。

4年目の2021年度は、日本社会教育学会において継続的に障害者の文化芸術活動を含む生涯学習をテーマにした研究協議を行い、2021年6月6日と9月10日にオンラインの公開研究会を実施し、協議に参加した。また、基礎教育保障学会でもこのテーマについての継続的な研究協議を開始し、9月18日の研究大会でオンラインでの公開協議を行った。12月18日には組織間の交流協定に基づき、韓国ナザレ大学、社団法人ラハブとの研究交流集会をオンラインで実施した。日常的には、兵庫県を舞台とした障害者の文化芸術活動を中心とした学びの機会の創出モデル開発を行った。加えて、新型コロナ感染拡大の影響を大きく被ったものの、附属施設「のびやかスペースあーち」におけるアクションリサーチの継続、知的障害者を対象とした体験新喜劇プログラム開発、附属特別支援学校におけるアクションリサーチなども行った。これらの研究成果の公開は、各種の研究論文の他、学会等での協議における口頭発表、報告書の作成等などでも行った。その中で今後の研究のベースとなる具体的な知見として、2020年度に実施した障害者の文化芸術活動をテーマとした意識調査の結果を分析することを通して、障害者の文化芸術活動作

品の価値づけに対するジレンマの詳細、障害者自身の葛藤状況などについて考察する材料を得た。また、文化芸術活動に取り組む障害者の活動条件に関する日韓比較なども行い、背景となる思想・哲学の差異なども検討した。研究協議においては、教育福祉論、発達保障論、福祉教育論をベースとしながらそれらを融合発展させていく方向で検討を進めるなどした。

最終年度である 2022 年度は、日本社会教育学会において継続的に障害者の文化芸術活動を含む生涯学習をテーマにした研究協議を行い、2022 年 6 月 4 日と 9 月 16 日にオンラインの公開研究会を実施し、協議に参加した。また、基礎教育保障学会でもこのテーマについて 9 月 4 日の研究大会で公開協議を行った。12 月 10 日には組織間の交流協定に基づき、韓国ナザレ大学、社団法人ラハブとの研究交流集会を主催し神戸大学で実施した。日常的には、兵庫県を舞台とした障害者の文化芸術活動を中心とした学びの機会の創出モデル開発を行った。加えて、附属施設「のびやかスペースあーち」におけるアクションリサーチの継続、知的障害者を対象とした体験新喜劇プログラム開発、附属特別支援学校におけるアクションリサーチなども継続した。これらの研究成果の公開は、各種の研究論文の他、学会等での協議における口頭発表、報告書の作成等などでも行った。また、研究代表者の単著執筆に取り組み研究成果を反映させた（2023 年 5 月刊行予定）。その中で特に、障害者の文化芸術活動と生涯学習の実践面・研究面での親近性に着目し、障害者の文化芸術活動推進における学びの過程、機能分化による障害をめぐる人の分断を修正する文化芸術活動の力、学校教育の役割、特に特別支援学校における文化芸術活動支援の可能性を追究した。また、海外とは障害者の文化芸術活動推進政策と生涯学習推進政策の日韓比較、障害者の文化芸術活動推進のための国際協調に向けたネットワーク形成を推進した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 井上太一、猪原風希、津田英二	4. 巻 16(1)
2. 論文標題 障害者の文化芸術活動におけるエンパワメントの過程～「思うようにならなさ」をめぐる表現者と支援者の葛藤の共振～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重、川地亜弥子、津田英二、河南勝、佐藤知子、殿垣亮子、柴田真砂子、黒川陽司	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 知的障害青年の大学教育プログラムはなにをもたらしたか：教育専門職養成大学における3年間の実践を通して～	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 87-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 58
2. 論文標題 大槻宏樹『「依存」の思想 - 「生きる」ための支点』早稲田大学出版部、2020年	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会教育学研究	6. 最初と最後の頁 134-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 16(4)
2. 論文標題 発達障害 空気を読まずに、言いたい放題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 こころの元気	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正幸, 赤木和重	4. 巻 28
2. 論文標題 特別支援学校教員を対象とした協調運動の困難な知的障害児の理解と支援に関する意識調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 148-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗	4. 巻 8
2. 論文標題 コロナ禍でみえてきたもの ニューノーマルと障害者についての哲学的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法と哲学	6. 最初と最後の頁 107-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗, 三井規裕	4. 巻 4
2. 論文標題 哲学カフェ企画運営から大学生が得た学びの検討 立場や考え方の異なる他者との対話実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 INAHARA, Minae	4. 巻 3(1)
2. 論文標題 A Dialogue between the Body Schema and the Body Image: A Case of Mild Athetoid Cerebral Palsy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PHILOSOPHY & CULTURAL EMBODIMENT	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松岡広路	4. 巻 58
2. 論文標題 当事者性の交差を生むESDプラットフォーム創成実践の方法と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会教育学研究	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗、中川雅道、津田英二	4. 巻 3
2. 論文標題 大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西林佳人、田中淳一、高橋眞琴、津田英二	4. 巻 15(2)
2. 論文標題 児童養護施設入所前における不登校経験：施設退所者のナラティブからの考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 211-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 なし
2. 論文標題 KUPIの実践が成熟期を迎えるために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 38
2. 論文標題 三谷雅純『 障害者 として社会に参加する：生涯学習施設で行うあらゆる人の才能を生かす試み』春風社、2021年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害学	6. 最初と最後の頁 233-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 522
2. 論文標題 知的障害青年のための大学教育の創造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文部科学教育通信	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 49
2. 論文標題 障害のある子どもと即興的表現活動：教育的ユーモアとしての「よじれたノリ」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 178-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田邦紘, 赤木和重	4. 巻 42(2)
2. 論文標題 軽度知的障害のある青年の障害受容：「ふつう」にこだわっていた青年は、なぜ「ふつう」にこだわらなくなったのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理化学	6. 最初と最後の頁 97-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡広路	4. 巻 なし
2. 論文標題 SD推進主体としての「変わりものネットワーク」の可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ESD実践研究2020	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上太一, 猪原風希, 辻合悠, 津田英二	4. 巻 14-2
2. 論文標題 非対称的關係の学習論：障害者の教育実践が提起する学びの形	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 767
2. 論文標題 排除されてきた人々への生涯学習支援 	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊社会教育	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 472
2. 論文標題 知的障害のある人と生涯学習：学習者中心という発想へ 	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達教育	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 471
2. 論文標題 知的障害のある人と生涯学習：障害者の生涯学習推進政策 	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達教育	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 470
2. 論文標題 知的障害のある人と生涯学習：卒業後も生活の中にある学び 	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達教育	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野未恵子	4. 巻 28
2. 論文標題 SDGsを切り口としたサービスマーケティングの可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ふくしと教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木 和重, 村上公也	4. 巻 161
2. 論文標題 ゆるる正しさ, ほどける自閉症 	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 60-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗, 藤原雪, 山川哲	4. 巻 2
2. 論文標題 大学院生が企画運営する哲学カフェの社会教育学的実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 88-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木 和重, 村上公也	4. 巻 161
2. 論文標題 ゆれる正しさ, ほどける自閉症 	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 60-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古村真帆, 赤木和重	4. 巻 25
2. 論文標題 通常学級における個別支援を他児童はどのように捉えているのか : 公正段階および親密度に着目 して 	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 83-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重, 大塚真由子	4. 巻 25
2. 論文標題 特別支援学校教員を対象とした個別の指導計画に関する意識調査: 作成上の悩みや困難に焦点 をあてて 	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 162-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎香奈	4. 巻 13
2. 論文標題 ノードフ・ロビンス音楽療法の理論と実践 - 即興音楽をいかに臨床的に活用するか ;	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床音楽療法	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 33
2. 論文標題 合理的配慮が福祉教育・ボランティア学習に提起するもの ;	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 86-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 749
2. 論文標題 公民館は障害者の学びに貢献してきたか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊公民館	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳	4. 巻 35
2. 論文標題 男女共同参画・若手支援ワークショップ報告ー家族におけるケアと依存 ;	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野未恵子	4. 巻 28
2. 論文標題 SDGsを切り口としたサービスマーケティングの可能性ー神戸大学ESDコースの取組みー 	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ふくしと教育	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 障害者の生涯学習推進政策の概念枠組みと未来社会に関する素描	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要	6. 最初と最後の頁 77-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 870
2. 論文標題 障害者の生涯学習支援推進の考え方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会教育	6. 最初と最後の頁 6-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 2
2. 論文標題 新しい学びの文化に出会う	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 シャンティつくば実践報告集	6. 最初と最後の頁 127-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 519
2. 論文標題 子どものけんかってすごい：発達の理解と対応	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本の学童保育	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 558
2. 論文標題 身体や心を「わがもの」にするには	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗	4. 巻 1
2. 論文標題 当事者とともに：現象学的質的研究の可能性を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現象学と社会科学	6. 最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡崎香奈	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 音楽療法士養成教育のこれからを考える (特集 音楽療法の今日的課題)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本芸術療法学会誌	6. 最初と最後の頁 16-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清野未恵子	4. 巻 11(2)
2. 論文標題 ESD実践主体の形成プロセスと事業形態との関連に関する研究 - プラットフォーム化との相関に着目して -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 寺門宏倫, 船橋秀彦, 李東貴, 津田英二, 長谷川正人, 田中良三
2. 発表標題 知的障害者の大学教育の可能性をめぐって
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津田英二, 井上太一, 猪原風希, 辻合悠
2. 発表標題 非対称的関係の学習論 ~ 障害者の教育実践が提起する学びの形
3. 学会等名 日本社会教育学会第66回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 哲学対話 ~ 「生きづらさ」を自分で「考える・語る・表現する」 ~
3. 学会等名 日本ファシリテーション協会関西支部イベント
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大田美佐子
2. 発表標題 音楽の歴史研究におけるトランスナショナルなアプローチについて
3. 学会等名 Workshop: At the Borders of Art and Power: Western Classical Music in the Global Marketplace
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 赤木和重
2. 発表標題 知的障害青年の20歳前後の人格形成を考える
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津田英二他
2. 発表標題 障害者と社会教育をめぐる話題提供
3. 学会等名 日本社会教育学会六月集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田英二・辻合悠
2. 発表標題 子どもの居場所づくり・元気の出る調査キット作成の背景
3. 学会等名 日本社会教育学会第66回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木和重
2. 発表標題 「学びほぐしunlearn」で自分が変わる
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古村真帆, 赤木和重
2. 発表標題 通常学級における個別支援を他児童はどのように捉えているのか
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第25回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 顔認知の発達と障害と
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minae Inahara
2. 発表標題 The Ghost of Eugenics in Japan: Exploring the Intersections of Disability, Asexuality, and Anonymity
3. 学会等名 Association for Asian Studies 2019 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡広路
2. 発表標題 出会いと葛藤から生まれる新しい価値・文化・ライフスタイル
3. 学会等名 日本福祉教育・ボランティア学習学会第25回北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤聡美, 松岡広路
2. 発表標題 福祉教育・ボランティア学習実践における〈当事者性の邂逅〉の意義
3. 学会等名 日本福祉教育・ボランティア学習学会第25回北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清野未恵子
2. 発表標題 多様な当事者性をつなぐESD実践の挑戦
3. 学会等名 日本社会教育学会・第43回関西研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田英二、稲原美苗、生田周二
2. 発表標題 対話を生み出す場づくり
3. 学会等名 日本社会教育学会第42回関西研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津田英二
2. 発表標題 障害者と社会教育をめぐる意見交換ワークショップ
3. 学会等名 日本社会教育学会第65回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津田英二他
2. 発表標題 合理的配慮は福祉教育・ボランティア学習を生み出すか
3. 学会等名 日本福祉教育・ボランティア学習学会第24回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡広路
2. 発表標題 SDGs and practices of ESD
3. 学会等名 Global Workshop in Kobe (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木和重
2. 発表標題 不確かさを支える発達論
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡崎香奈
2. 発表標題 ノードフ・ロビンス音楽療法の理論と実践
3. 学会等名 日本臨床音楽療法学会第13回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大田美佐子
2. 発表標題 日本の文化的記憶装置としての三文オペラ - 新劇から宝塚版に至るまで
3. 学会等名 神戸大学三校人文学シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 The Ghost of Eugenics in Japan: Exploring the Intersections of Disability, Asexuality, and Anonymity
3. 学会等名 AJJ Anthropology of Japan in Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 Visualizing Pain with an Artist: A Phenomenological Study of Embodied Subjectivity in Dialogue
3. 学会等名 8th PEACE (Phenomenology for East Asian CircIE) Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 哲学的当事者研究の可能性 造形制作を通じたピアとの対話の意義について
3. 学会等名 日本哲学プラクティス学会 第1回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 津田英二	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 生涯学習のインクルージョン	

1. 著者名 稲原 美苗、川崎 唯史、中澤 瞳、宮原 優	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 208
3. 書名 フェミニスト現象学入門	

1. 著者名 赤木和重	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 208
3. 書名 子育てのノロイをほぐしましょう	

1. 著者名 小西 祐馬, 川田 学, 松本 伊智朗, 赤木和重他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 352
3. 書名 遊び・育ち・経験：子どもの世界を守る	

1. 著者名 赤木和重	4. 発行年 2018年
2. 出版社 全障研出版部	5. 総ページ数 143
3. 書名 目からウロコ！驚愕と共感の自閉症スペクトラム入門	

1. 著者名 赤木 和重, 岡崎 香奈	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 196
3. 書名 ユーモアの即興から生まれる表現の創発	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>インクルーシブな社会をめざす実践的研究 http://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/communitiyhouse.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	稲原 美苗 (INAHARA MINAE) (00645997)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	松岡 広路 (MATSUOKA KOJI) (10283847)	神戸大学・人間発達環境学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	岡崎 香奈 (OKAZAKI KANA) (20737332)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	大田 美佐子 (OHTA MISAKO) (40362751)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	清野 未恵子 (KIYONO MIEKO) (40570966)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	赤木 和重 (AKAGI KAZUSHIGE) (70402675)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	猪原 風希 (INOHARA FUKI) (10915226)	神戸大学・附属学校部・特別支援学校教諭 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日韓交流セミナー「知的障害者の舞台芸術とその支援」	開催年 2020年～2020年
-------------------------------------	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------